第１４課　ヨブ記からの教訓

【暗唱聖句】

「忍耐した人たちは幸せだと、わたしたちは思います。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです」ヤコブ5:11

【今週のテーマ】

ヨブ記をすべて理解できるわけではありませんが、いくつかの大切な教訓を学ぶことができます。そこに目を向けましょう。

【日曜日　見えるものによらず、信仰によって】

「目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです」第二コリ5:7

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」第二コリ4:18

わたしたちは目に見えるものに頼るのではなく、信仰によって歩まなければなりません。信仰によって歩むとは、見えないもの、すなわち神様に目を注いで生きるということです。それは見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。つまり、わたしたちは刹那的な生き方ではなく、目の前にあることに追われるのでもなく、永遠なるものを見つめて、永遠なるもの目指して、今を生きているのです。そのためには目に見えないものに目をそそぐ信仰が必要なのです。

同様にヨブ記には目に見えない世界があるということを教えています。しかし、ヨブも目に見えない部分の多くを知らずにいました。そのことを自覚したとき、信仰によって生きるということがいかに大切なのかを改めて思い知らされたのです。

【月曜日　邪悪な存在】

この世界には邪悪なものが存在しています。悪には地震のような自然悪、殺人のような道徳悪があります。聖書はこの悪は一つの創造物（天使）が堕落してサタンとなり、そこから始まったことを教えています。サタンの存在を否定する人も大勢いますが、サタンの存在を抜きに、この世界に起こる邪悪な出来事を説明することはできません。ヨブに襲い掛かった災いもサタンから来ていましたが、それはヨブの理解を超えたことであったのか、一度もサタンの名が彼の口から出ることはありませんでした。すべての苦難の原因を神様と結びつけようとしています。しかし、サタンの存在を無視するわけにはいきません。

【火曜日　このような友人たちと】

友人たちははじめヨブを慰めるために彼のもとを訪れました。しかしやがてヨブを慰め、励ますよりも、彼の神学的理解の間違いを正すこと、罪の結果苦難が起こったことを認めさせることに彼らの思いは満ちていきます。しかし、仮に彼らの主張が正しかったとしても、それがそんなに重要なことなのでしょうか。

イエス様は姦淫の罪でとらえられた女に対して、イエス様は彼女を責めるのではなく、ゆるし、もっと良い生活をするように励まされました。イエス様は罪を軽く見たりしませんが、人を罪に定めようとはしないで救おうとされました。

わたしたちも多くの過ちを犯してしまった人を前にしたとき、その人を責め、見下す態度をとるのか、それともその人をゆるし、励ます慰めと望みの言葉を語るのでしょうか。

【水曜日　茨とあざみ以上のもの】

人間が罪を犯した後、この世界は茨とあざみで覆われました。しかし、茨とあざみも美しい花を咲かせます。この世界は決して茨とあざみだけに覆われた世界となったのではありません。つまり、いたるところに神の愛と赦しが輝いているのです。

ヨブが被った災いは決して公平なものではなかったし、理不尽なものでもありました。しかし、その中にも神様のご計画があり、その苦難の中でも花が咲こうとしていました。神様にはヨブに教えようとしておられたことがありました。ヨブが知らなければならないことがありました。

「たしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである」エレミヤ29:11

【木曜日　イエスとヨブ

イエス様とヨブの共通点

①正しい人であった　②悪魔から誘惑を受けた　③悪いことをしていると思われた　④試練にあった

⑤神に忠実であった

ヨブは必ずしもイエス様の予型的な存在ではありませんでしたし、すべての点でイエス様は上回っていましたが、

このような共通点を聖句から抜き出すことができます。そして、イエス様もヨブも自分自身に何か非があるわけではないのに、どちらも苦難の中を通らされたこと、これが最大の共通点と言えるかもしれません。